

日本心理学会若手の会

JPA Early Career Psychologist Network



NEWS LETTER

Vo.3 No.2 2019



CONTENTS

- ・ 第4回異分野間協働懇話会のお知らせ
- ・ 日本心理学会第82回大会若手の会企画報告
- ・ 活躍する若手！（旅費支援事業における受賞者）
- ・ 編集後記

第4回異分野間協働懇話会のお知らせ

4回目となる「異分野間協働懇話会」の開催が決定しました。本懇話会は、分野や研究/実践の枠にとらわれず、様々な若手心理学者がアイデアや意見の交換を行うことで、新たな研究や実践のあり方について議論を深めることを目的としています。

今年は1日目にポスター発表と招待講演、2日目に研究公表会を計画しております。1日目は恒例となりましたポスター発表と、北岡明佳先生（立命館大学）によるご講演、2日目は新企画として博士課程修了後5年以内の計3名の方による研究公表会を計画しております。奮ってご参加下さい。

日時：2019年3月4日(月)-5日(火)

場所：アピカルイン京都（京都市左京区）

異分野間協働懇話会 2019HP：<https://jpay-studymeeting-kyoto.jimdofree.com/>

（久永 聡子・宮坂 真紀子）

日本心理学会第82回大会若手の会企画報

＜若手のワンショット発表会＞

今大会でも昨年度に引き続き、ワンショット発表会を行いました。この企画は、1人1分の持ち時間で自身の研究概要を説明するというもので、ポスター発表の宣伝を兼ねています。1分間という短い時間だからこそ、それぞれがアピールしたい点をしばったり、興味を持ってもらえるように工夫をしながら発表を行っていました。参加者からは、「発表内容に少しでも関心を持ってくれる人が増えたのはありがたかった」「他分野の同世代の研究者と知り合うきっかけになった」などの嬉しい感想をいただきました。一方で、時間の短さや会場と参加人数のミスマッチなどについてのご意見も寄せられました。皆様のご感想やご意見は来年度の企画に活かしたいと思います。

（三浦 佳代子・前田 駿太）

＜学部生のプレゼンバトル＞

ワンショット発表会と同様に、今大会も学部生を対象としたプレゼンバトルを行いました。2回目の開催となる今回のバトルには、総勢10名もの学部生がエントリーしてくれました。参加者たち

は興味のあるトピックや自分の研究についてスライドを駆使しながら5分間でプレゼンしました。学部生とは思えないハイレベルなバトルが繰り広げられ、大いに盛り上がりました。参加者からは、「発表を聞いて自分も今後は発表したいと感化された」といった感想も聞かれました。学部生同士がお互いに刺激し合い、学びのモチベーションが高まる機会になったことと思います。学部生が参加できる企画は今後も継続していきます。



(プレゼンバトルの発表者達)
(三浦 佳代子・前田 駿太)

<進路相談会>

第81回大会に引き続き、第82回大会でも若手の教員や大学院生による進路相談会を開催しました。

今回の進路相談会では、学部生と院生・研究員等の2グループに分かれて、進学・就職といったキャリアパスに関する疑問や経済的な不安といった悩みを共有していきました。各グループでは、これらの悩みをどのように解決していったのかというノウハウについて話し合われるとともに、先輩たちが同じような悩みを持っていたことを共有しており、共通する悩みを抱える学生同士が大学の枠を超えて情報交換できる機会となりました。

また、今大会の参加者からは「個別相談も実施してほしい」という要望もあり、第83回大会に向けて、「個別相談コーナー」の設置も検討していく予定です。

今後も、進路や就職について悩みを抱えている多くの若手の方が気軽に参加できるような企画を実施していきたいと思えます。



(進路相談会の様子)
(瀧澤 颯大・宮坂 真紀子)

<若手の会企画シンポジウム>

今年度から若手の会が日本心理学会の委員会として位置づけられたことに伴い、「日本心理学会若手の会キックオフシンポジウム：若手にとってこれから必要なこと」を開催しました。本シンポジウムでは、若手会員の関心事として代表的なものである「研究費獲得」「留学」「就職活動」の3つのテーマについて情報を共有しました。話題提供者として岡村靖人さん(追手門学院大学)、大塚貞男さん(京都大学)、塩田翔一さん(京都大学)、榊浩平さん(東北大学)の4名にそれぞれのご経験などをお話し頂き、また、指定討論者として横田正夫先生(日本大学)と高瀬堅吉先生(自治医科大学)にコメントをいただきました。お二人の先生方からは「移りゆく時代のニーズの中で今後も若手にとって本当に必要なこととは何か?」という問題提起がなされ、それに話題提供者が答える形で活発な議論が行われました。今回のシンポジウムにも多くの方にご来場頂き、盛況のうちに終了しました。みなさま、ご参加ありがとうございました!



(シンポジウムの様子)
(三浦 佳代子・前田 駿太)

<旅費支援事業>

第81回大会に引き続き、第82回大会でも若手の大会参加者に対する旅費支援事業を実施しました。本事業は、応募者からの書類をもとに、①抄録の内容(発表枠のみ)、②大会参加への熱意、③金銭支援の合理性、④大会参加で開ける今後の展望性(特に、今後の心理学界への貢献可能性)という4つの観点で、若手の会幹事会で審査を行い、高評価者に対して旅費の支援を行うものです。特に、③と④を項目に含めることを特徴としており、これらを重視することから発表者だけでなく参加のみの方も支援対象としています。

今大会では、結果、全応募者9名の中から4名(うち参加枠1名)の方が支援対象者として選ばれました(支援対象者からは「活躍する若手」のコーナーで一言いただいておりますので、そちらをご覧ください)。授与式は大会1日目の若手の会企画の中で行われました(写真)。第83回大会での実施についても検討しておりますので、多くの方のご応募をお待ちしております。



(蝦名さん(左)と重松さん 旅費支援授与式にて)
(瀧澤 颯大・黒田 剛士)

「活躍する若手！」第4回 旅費支援事業受賞者の方々

金沢大学大学院 博士課程1年

蝦名 昂大さん

この度は、日本心理学会第82回大会への旅費の支援、授賞式や挨拶の機会までいただいたこと感

謝申し上げます。大会中、授賞式の挨拶をきっかけに声をかけていただくこともあり、大会の3日間、大変有意義な時間を過ごすことができました。3日間様々なシンポジウムに参加し、他の分野と連携して課題を解決することの必要性や、より良い連携のためにも問題を提起して検証する研究力の重要性を改めて実感しました。また、講演やポスター発表では、発表者一人ひとりが発表する内容がその分野全体のどこに位置し、長期的な目標に対してどのような意義があるのかを深く考察されており、私自身も一度視野を広げて、今行っている研究の長期的な目標や位置づけを改めて考える貴重な機会となりました。今後も研究力と実践力を磨くことを意識して毎日の研究に取り組み、心理学界に貢献できるよう尽力いたします。

広島大学大学院 博士課程後期1年

重松 潤さん

旅費支援事業へ採用していただき、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

私は本大会で、公募シンポジウム「認知行動療法がもつ社会・認知・神経心理学側面を再考する」にて話題提供者として登壇させていただきました。私の専門は臨床心理学で、その中でも「認知」を扱う認知行動療法を、「腑に落ちる理解」という現象の観点から研究しています。本大会では、「認知心理学の認知と、臨床で扱われる認知って違う？」という素朴な疑問から出発して、認知心理学と認知行動療法の接点は何か、その架け橋として「腑に落ちる理解」という視点が有用ではないかというお話をさせていただきました。

公認心理師が誕生し、今後、認知行動療法も含め、臨床心理学のエッセンスはますます日本に広がっていくでしょう。その中には優れた理論、技法、パッケージがあるのかもしれませんが、それが優れた臨床の再現性を担保するかどうかは検討の余地があります。この議論の呼び水のひとつとして「腑に落ちる理解」があると私は考え、研究し

ております。研究を進める中で、いかにして基礎心理学の知見を臨床心理学の中に取り込めるか、つくづく考えさせられます。日本心理学会で「臨床とは何か？」を、様々な分野の先生方と議論できる場をご提供できるように精進して参りたいと思います。

広島大学大学院 博士課程後期1年

小林 亮太さん

この度は若手の会より、日本心理学会第82回大会への旅費のご支援を賜りました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

私は博士課程後期の院生で、感情について研究を進めています。特に、感情制御に関心があり、どのようにしたらネガティブな感情を必要に応じて緩和することができるのかということを実験を行ったりしながら考えています。また、最近「そもそも感情って何だろう」と思うことが多く、この間について心臓の鼓動のような内受容感覚の観点から研究をしていきたいと考えてもいます。

今回の学会では、感情制御に他者の視点を取り入れた研究についてポスター発表を行い、今まで話してみたいと思っていた先生方と議論をすることができました。今後も大会に参加し、自分の研究を魅力あるものにしていきたいと思っております。ありがとうございました。

神戸大学 国際文化科学研究科 講師

巽 智子さん (当時 リバプール大学研究員)

日本心理学会第82回大会では、旅費支援を頂きありがとうございました。日本心理学会に参加するのは初めてのことで、ずんだ餅やワカメ等のお土産屋さんが並ぶ程の規模の大きさに驚きました。3日間様々な興味深いテーマの発表を聞き、また自身でもポスター発表と小講演をさせて頂き、十分に大会を楽しむことができました。

私は主に第一言語習得の研究をしています。子供の言語知識がどのように構築されるか、そのメ

カニズムや変化のプロセスに関心があります。これまで発話データベースを用いた研究や、実験による幼児の言語産出の研究を行ってきました。今後、こうした研究手法を続けていくだけでなく、コンピュータモデリングの手法を用いた言語の習得メカニズムの研究を始めようと考えており、プログラミングの練習など準備をしています。言語習得という領域横断的なテーマを広く深く探るため、様々な専門を持つ研究者の方々と集まり、面白い共同研究を長期的に展開していくことを目指しています。

編集後記

今号は、第4回異分野間協働懇話会のお知らせ、日本心理学会第82回大会若手の会企画報告と活躍する若手！を掲載させていただきました。懇話会は3月4～5日（月～火曜日）に行われ、参加・発表期限は2月10日（日曜日）です。同世代の若手と交流を深め、分野の違う方々と話し、良い刺激を受けられる素晴らしい機会です。院生や学部生にとっても将来のことや研究に繋がることがあるかもしれません。ご都合のつく方は奮ってご参加ください！お待ちしております！

今年度で若手の会発足当初から長年幹事を務めてきた黒田と廣瀬が退任します。幹事会のメンバーはまだ比較的新しいですが、これからも若手のため日本の心理学のために盛り上げていこうと思いますので引き続きよろしく願いいたします。

(廣瀬 健司・佐藤 徹男)

発行：若手の会幹事会

〒113-0033 東京都文京区本郷

5-23-13 田村ビル内

公益社団法人日本心理学会事務局

ips-ecp@psych.or.jp

2019年1月28日発行

編集：若手の会幹事会